

3.

I REI
SATOSHI

伊礼智

里山の平屋暮らしの家

閉じてよし、開いてよし
町と家の「あいだ」を繋ぐ

高性能を実現しながら
里山の風景と緩やかに一体となる大開口。
性能と意匠の融合で生まれた
日本らしい平屋の佇まい。



南面の屋根には全館空調+太陽熱利用システム「OMX」の集熱パネルが敷き詰められる。深い軒が夏の日射を遮る。

01:障子、木製ガラリ戸それを閉じる、開くことで室内の表情が変わる大開口。
02:リビング・ダイニングの西側からキッチン・玄関方向を見る。リビングの天井高を抑え落ち着く空間に。



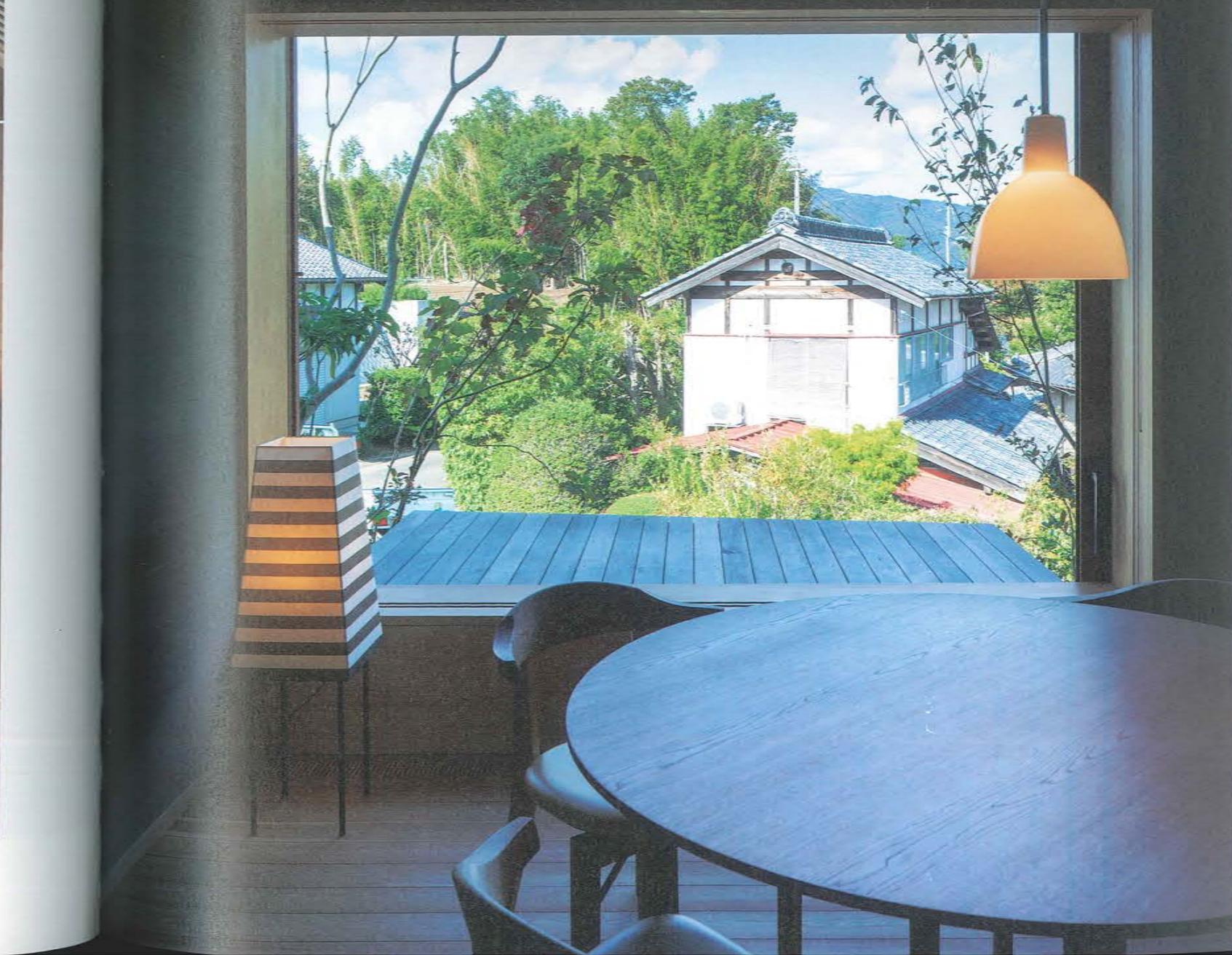
01

02

風景を美しく切り取る北側の窓の外には縁側が続き、視線に広がりを持たせる。



縁側が視線の先に広がりを生む。



01: フレームレスの大型引き込みサッシ。ハンドルは使用しないときは枠内に収納できる。02: リビングの壁面収納上部にはOMXの吹き出し口が隠れている。リビングダイニングからプライベートな空間へとつなぐ廊下奥には庫戸を設置。目隠しと西日を遮る役割を持たせた。



01



02



開いてよし、閉じてよし。

次抜けに座っているダイニングの天窓からやわらかい光が差し込む。

開口部近傍に心地よさが宿る。

2019年6月1日から「里山住宅博inつくば」が開催されている。そのヴァンガードハウス(先進的な住宅)のひとつである「里山の平屋暮らしだ」(柴木材モデルハウス)を設計する機会を得た。敷地の周辺には里山の風景が広がり、日本ではあまり見かける事のないコモンスペースを中心に広がる分譲地である。柴モデルの設計条件は2つ、ひとつは平屋であること、二つ目はOMソーラーの最新のシステムである「OMX」を搭載することであった。

里山らしい敷地の選定。

大地に繋がる平屋暮らしが可能な敷地は、用意された分譲地の中に多くは存在しない。ヴァンガードハウスは優先的に敷地を選んで良いという条件があり、至急、東西に巾のある敷地を3カ所ほど選びスタディを行った。

ワンフロアで基本的な生活が納まり、ソーラーを搭載するからには南に正対できる条件を満たす敷地はひとつしかなかった。そしてその敷地は北側に宝筐山が望める景観の良い敷地でもあった。

普段から道路側を、方位に関係なくコモンと見なして設計をしている。道路側が町への接点であり、道路に対して住まいの佇まいを整えることがマナーであり、景観を整え、町を良くする義務もあると考えるからだ。町と家の間を緩やかに繋がるように、南面に緑のバッファーゾーンを設け、その内側に外部テラスを配し、大きな開口でリビングに繋げた。反対の北側の開口は里山の風景を取り入れ、その向こうの宝筐山へと視線が抜けるようにした。

南北の大きな開口が町と里山を緩やかに繋げている。東西には活動線が流れるように処理されている。まるで里山の風景が、この家の暮らしを包み込むようにプランが自然と整ったといって良い。



01

01:引き違いのサッシの半分だけ利用して引き込み戸にすることで直線で美しい納まりに。02:玄関からアプローチを見る。03:ロフトの吹き出し口から吹抜け空間へと空気を循環させる。04:ロフトの奥には機械室。手前からは物見台に上がる。



大地と繋がる里山の住まい。



02

03

04

北のデザインと南のデザインの融合。

このプロジェクトでは性能と意匠の融合も大きなテーマである。日頃から北のデザインともいべき高気密・高断熱の技術と、南のデザインともいべき、外部と緩やかに繋がり一体となる設計を融合させたいと考えている。そのためにも開口部のあり方が重要となる。高気密・高断熱住宅では窓を開けることがほとんど無くなるとよく耳にする。それは豊かなのか…?住まい手が季節や自分の気持ちで外部を取り入れ、外部と繋がる心地よさこそが日本の文化として受け継いでいくべきではないか?と感じている。

沖縄で生まれ育った人間として、沖縄の「アマハジ(軒下空間)」(右写真)の楽しさが設計のバックボーンとなっていて、断熱・気密の性能と融合し、「閉じてよし、開いてよし」の開口部のあり方を常に模索している。今回はLow-Eガラス入りの木製のヘーベーシベ*を中心外側に木製ガラリ戸(視線の制御と日射遮蔽、防犯)と網戸、内側に障子を仕込んでいる。日本らしい、そして自分らしい楽

しい開口部になったと思う。日頃から開口部近傍が最も心地よく、デザインの可能性がまだ残っている場所だと感じている。

OMXという現代の最高のエコ設備。

OMソーラー(空気集熱式のソーラーシステム)は恩師である奥村昭雄が考案した日本のソーラーシステムである。奥村亡き後、OMソーラー株式会社と東京大学の前真之氏が開発した「OMX」はヒートポンプ1台で暖冷房、熱交換式換気システムを備えお風呂のお湯をつくり、さらに空気集熱式のソーラーでもあり、太陽光で発電も行う、前氏自慢のエコ設備である。素晴らしい装置であるのだが、「ヤマタノオロチ」か?と思うほどダクトが多く、設備の集合体なのだ。ここではメカメカしい設備を感じさせないように、ダクトの経路や吹き出し口などの工夫を試みた。その甲斐があって、現代の最高のエコ設備を持つ、里山に溶け込むような奥ゆかしい住まいとなったのではないかと感じている。

(伊礼智)



沖縄「鉢苅家」のアマハジ。
外部と内部が緩やかに繋がる。

里山の平屋暮らしの家

所在地	茨城県つくば市
敷地面積	320.99m ²
建築面積	109.43m ²
延床面積	120.43m ²
1階	/ 102.26m ²
2階	/ 18.17m ²
構造	木造軸組工法
設計	伊礼智設計室
施工	柴木材店
造園	荻野寿也景観設計 荻野寿也

*引戸が持ち上がってスライドする仕組みのサッシ